

## 新所長・新所員が加わり、 時間学研究所の新体制始動

新年度から新所長として進士正人教授、新所員として右田裕規講師が着任しました。これに先立ち昨年度後期の11月から宮崎真教授も着任しており、所長1名+専任教員5名となりました。

それに加えて、昨年度後期から新年度にかけて、佐藤美穂研究員、山田祐樹助教、技術補佐員に佐藤久美子さん、事務補佐員に高下翠さん、中村由樹さん、横山春美さんといった新メンバーも研究所に加わりました。

次頁にこれまでお馴染みの面々に新た

な顔ぶれを加えた新体制の詳細を紹介いたします。装いも新たに時間学研究所一同、時間学の更なる発展を目指します。



## 明石真教授が NHK 『クローズアップ現代』 『あさイチ』 に出演！

明石教授がNHKの『クローズアップ現代』（4月23日放送）、『あさイチ』（5月9日放送）に出演しました。クローズアップ現代では、特集「がん・リウマチに効果 時間医療の最前線」のなかで明石教授の開発した時計遺伝子の測定法が紹介され、夜勤等の不規則な労働時間条件

が体内時計と健康に与える影響についてコメントしました。『あさイチ』では生出演し、スタジオや視聴者からの時間医療に関する質問に回答しました。薬を投与する時間を変えるだけで治療効果を飛躍的に向上させることもできる時間医療は視聴者から大きな反響を呼びました。



### ハイライト

- ・新所長・新所員加入
- ・明石教授 NHK 出演！

### 目次：

新所長・新所員が加わり、 時間学研究所の新体制始動	1
明石教授が「クローズアップ 現代」「あさイチ」に出演！	1
新体制紹介	2~3
所長室より	3
・就任の御挨拶	
お知らせ	4
・公開学術シンポジウム 「映像・映画・身体と、時間」 (6月9日、立教大学)	
・日本時間学会第4回大会 (6月9-10日、立教大学)	
・山田助教が Frontiers 誌 に Research Topic 開設	
時間学ミニ辞典	4
・夜	

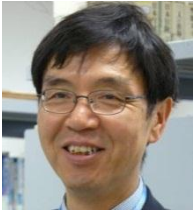
時間学研究所ニュースレター第1号をお届けします。今回は時間学研究所の新体制の紹介と明石教授「クローズアップ現代」出演の特集です。

《時間学研究所》  
〒753-8511  
山口市吉田 1677-1  
TEL/FAX083-933-5848  
jikann@yamaguchi-u.ac.jp  
www.rits.yamaguchi-u.ac.jp





# 新体制紹介



所長・教授 進士正人

研究分野：土木工学  
・トンネル工学

研究テーマ：社会インフラとくにトンネルの建設とのアンチエージングの研究

**履歴：**1957年生まれ（福井県出身）。神戸大学大学院博士課程自然科学研究科修了。1985年4月(株)応用地質調査事務所（現：応用地質株式会社）入社。2001年7月 応用地質株式会社退職。山口大学工学部助教授。2007年12月より山口大学大学院理工学研究科教授。2012年4月時間学研究所長兼任。2001年土木学会論文賞受賞

**代表的な研究成果：**

- ・“トンネル坑内におけるデジタルカメラを利用した簡易粉じん測定法”，進士正人，岸田展明，土木学会論文集G, Vol. 66, No. 1, pp.1-8, (2010).
- ・“The forward ground prediction method based on the axial displacement behavior including three dimensional tunnel convergence measurements”, I.Takemura & M.Shiriji, Proc. of the Int. Symposium on Advanced in Ground Technology and Geo-Information, IS-AGTG, 215-223, Dec 1,2, Singapore, 2011.



教授 藤沢健太

研究分野：宇宙物理学  
・電波天文学

研究テーマ：山口32m電波望遠鏡を用いた星形成と活動銀河核の研究

**履歴：**1967年生まれ（大分県出身）。東京大学理学部天文学科卒業。東京大学大学院理学系研究科を終了。博士（理学）。宇宙科学研究所COE研究員、通信・放送機構研究院を経て国立天文台助手、山口大学助教授・准教授、2010年4月より現職。2011年、文部科学大臣表彰科学技術賞を時間学研究所グループにて受賞。

**代表的な研究成果：**

- ・ Fujisawa Kenta et al. Bursting Activity in a High-Mass Star-Forming Region G33.64-0.21 Observed with the 6.7 GHz Methanol Maser Publ. Astron. Soc. Japan, 64, 17 (2012)



教授 明石真

研究分野：時間生物学、分子生物学、細胞生物学、時間医学

研究テーマ：分子機構の理解を目指した研究を中心に、ヒトの体内時計の測定法なども開発しています。

**履歴：**1973年生まれ（北海道出身）。京都大学農学部卒業後、京都大学大学院理学研究科（西田栄介研究室）へ進学。日本学術振興会特別研究員（DC2→PD、SPD）を経て、佐賀大学循環器内科学教員に赴任。2009年10月より現職。2010年、日本時間生物学会 学術奨励賞受賞。2011年、文部科学大臣表彰科学技術賞を時間学研究所グループにて受賞。

**代表的な研究成果：**

- ・ Akashi M et al. PNAS 2010;107(35):15643-8.
- ・ Akashi M and Takumi T. Nat. Struct. Mol. Biol. 2005;12(5):441-8.
- ・ Akashi M and Nishida E. Genes. Dev. 2000;14(6):645-9.



教授 宮崎真

研究分野：認知神経科学、スポーツ科学

研究テーマ：ヒトの時間知覚、身体知覚、運動制御の心理物理学的・神経生理学的メカニズム

**履歴：**1971年生まれ（埼玉県出身）。早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒業。東京大学大学院総合文化研究科修士・博士課程修了。博士（学術）。国立リハセンター流動研究員、早大助手、助教、高知工科大准教授を経て、2011年11月より現職。平成23年度 文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞。

**代表的な研究成果：**

- ・ Miyazaki, Hirashima, Nozaki. The “cutaneous rabbit” hopping out of the body. J Neurosci 30 (9):1856-1860, 2010.
- ・ Miyazaki, Yamamoto, Uchida, Kitazawa. Bayesian calibration of simultaneity in tactile temporal order judgment. Nat Neurosci 9: 875-877, 2006.



准教授 青山拓央

研究分野：哲学（とくに分析哲学）  
・倫理学

研究テーマ：時間・言語・自由・心身関係の哲学

**履歴：**1975年生まれ（埼玉県出身）。県立浦和高校、千葉大学、同大学院（博士課程単位取得）、日本学術振興会特別研究員などを経て、2006年4月より時間学研究所教員。2006年、日本科学哲学会石本賞（第1回）を受賞。2011年、文部科学大臣表彰科学技術賞を時間学研究所グループにて受賞。

**代表的な研究成果：**

- ・ 青山拓央、『分析哲学講義』、筑摩書房、2012.
- ・ 青山拓央、「時制的変化は定義可能か」、『科学哲学』32-2号, pp. 59-70, 日本科学哲学会, 2004.
- ・ 青山拓央、『新版 タイムトラベルの哲学』、筑摩書房, 2011.



講師 右田裕規

研究分野：社会学

研究テーマ：祝祭論、時間にかかわる心性史

**履歴：**1973年生まれ（島根県出身）。京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、大谷大学助教を経て、2012年4月より現職。

**代表的な研究成果：**

- ・ 『夜食の文化誌』（共著）、青弓社、2010
- ・ 「明治期知識人層における生物進化論の流行再考」『科学史研究』225, 2003.



### 助教 岡本暁彦

**研究分野:** 時間生物学・分子生物学  
**研究テーマ:** 体内時情調節の分子機構の解析、体内時計の時刻決定方法など

**履歴:** 1980年生まれ(山口県出身)。岡山大学工学部生物機能工学科卒業。京都大学大学院生命科学研究所修士・博士課程修了。博士(生命科学)。株式会社医学生物学研究所勤務を経て、2011年6月より現職。

#### 代表的な研究成果:

- Okamoto, Koike, Yasuda, Kakizuka. Maintaining ATP levels via the suppression of PERK-mediated rRNA synthesis at ER stress., *Biochemical and Biophysical Research Communications*, 394: 42-47, 2010.



### 助教 山田祐樹

**研究分野:** 実験心理学

**研究テーマ:** 時空間情報の知覚と認知に關する心的機序

**履歴:** 1981年生まれ(福岡県出身)。広島大学教育学部第5類心理学系コース卒業。九州大学大学院人間環境学府修士・博士後期課程修了。博士(心理学)。九州大学大学院人間環境学研究院での日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、2012年4月より現職。

#### 代表的な研究成果:

- Yamada, Y., & Kawahara, J. (2007). Dividing attention between two different categories and locations in rapid serial visual presentations. *Percept. Psychophys.*, 69, 1218-1229.
- Yamada, Y., Miura, K., & Kawabe, T. (2011). Temporal course of position shift for a peripheral target. *J. Vis.*, 11(6):6, 1-12



### 学術研究員 佐藤美穂

**研究分野:** 哺乳類の時間生物学

**研究テーマ:** 摂食による末梢時計の時差調節

**履歴:** 1982年生まれ(山口県出身)。岡山大学生物学科卒業。神戸大学医学系研究科修了。京都大学薬学研究科卒業。博士(薬学)。京都大学薬学研究科研究員(学術振興)、株式会社トランスジェニック研究開発員を経て、2012年1月より現職。

#### 代表的な研究成果:

- Sato M et al. Transportin 1 in the Mouse Brain: Appearance in Regions of Neurogenesis, Cerebrospinal Fluid Production/Sensing, and Circadian Clock, *J Comp Neurol*. 519(9):1770-80, 2011



### 研究所事務担当 平田博子

進士丸の船出とともに、新たな時間学研究所がスタートしました。明石効果か、研究所の認知度は上がり、一般の方やマスコミからも問い合わせが急増中。時間学は幸福学。人生は時間旅行。あなたの未来意識を探す旅です。  
(2008年12月より現職)

#### 技術補佐員:

荒木良吾 (明石研)  
飯干真紀 (明石研)  
佐藤久美子 (明石研)  
松村律子 (明石研)

#### 事務補佐員:

高下翠 (宮崎研)  
中村由樹 (藤澤研)  
横山春美 (明石研)



## 所長室より

## 就任の御挨拶

4月より、時間学研究所所長を拝命いたしました進士です。

これまで、時間学研究所第4研究グループのグループリーダーとしていろいろな時間学に関する問題を藤沢教授と取り組んできました。とは言うものの、研究グループの研究発表会を工学部で主催し、いつもと全く異なる分野の研究発表を聞いて議論することができ文理融合を目指す時間学研究の面白みをすこし分かりかけた状況でした。そのような状態で、今回、研究所長という重責を辻先生から受け継ぐこととなり大きなプレッシャーの中2か月があつという間に過ぎました。

ニュースレターの冒頭にもあるように研究所は、新年度から更に右田講師を研究所に迎えて専任教員5人体制となりました。5名の専任教員はそれぞれの分野の極めて新進気鋭の研究者です。そのような中、所長の業務の一つは時間学研究所の専任研究者や研究グループをつなぐ糸を見つけることと自覚しています。また、2001年に広中元学長が提唱され発展してきた時間学研究成果を分かりやすい形で社会に還元することや、全世界に唯一の研究テーマを抱える研究所として基礎固めをすることも重要な所長の業務と考えるようになりました。

吉田キャンパスの農学部裏にあります総合研究棟2階に所長室があります。お隣は農学部が誇る圃場や果樹園が広がり、四季の移り変わりを肌で感じることができます。時間学に興味をお持ちの方はお越しただければ吉田キャンパス内で一番おいしいコーヒーで歓迎いたします。(進士正人)

# お知らせ

## 時間学公開学術シンポジウム 「映像・映画・身体と、時間」

2012年6月9日(土) 午後2時より、立教大学池袋キャンパスにてシンポジウムを開催いたします。山口大学時間学研究所との共催による一般公開シンポジウムで、会員/非会員を問わず、どなたでもご参加になれます(予約不要・無料)。

### ・シンポジウム講演者

宇野邦一 教授(立教大学 現代心理学部映像身体学科)

中野珠実 助教(大阪大学 生命機能研究所)

日高聡太 准教授(立教大学 現代心理学部心理学科)

コーディネーター: 青山拓央 准教授(山口大学時間学研究所)



## 日本時間学会第4回大会

日本時間学会第4回大会は、下記の通り開催されます。

日時: 2012(平成24)年6月9~10日

6/9 (土) 自由報告 シンポジウム 懇親会

6/10 (日) 総会 自由報告

場所: 立教大学 池袋キャンパス

交通アクセス <http://www.rikkyo.ac.jp/access/>

大会委員長: 石川巧 教授(立教大学文学部国文学科)

## 山田助教、Frontiers 誌に Research Topic を開設 投稿論文募集中!

山田祐樹助教が、学術誌 Frontiers in Psychology から Host Editor に選定されました。現在、“Awareness shaping or shaped by prediction and postdiction” というタイトルで Research Topic を開設し、投稿論文を募集中です。詳細は以下の URL から特設HP をご覧ください。

[http://www.frontiersin.org/Consciousness%20Research/researchtopics/Awareness\\_shaping\\_or\\_shaped\\_by/870](http://www.frontiersin.org/Consciousness%20Research/researchtopics/Awareness_shaping_or_shaped_by/870)

以下の短縮 URL でもアクセスできます。

<http://goo.gl/w5iom>

## 時間学ミニ辞典

### 【夜】

〈夜〉を他の時間帯から区別する思考とことばはあるていど時代や社会を超えて見いだされる。太陽が沈んでまた昇るまでの暗がりの時間帯に特定の名前(夜、night、nuit……)をあたえ、あかるい時間帯と対置し、生活時間の重要な区切りとする。こういう思考と習慣そのものはかなり普遍的な営みだといいたい。ただ社会史家が鑑照するように、〈夜〉にかかわるイメージや体験が時代ごと社会ごとに大きく変わってくるのもたしかである。かれらによるとそれは歴史社会的条件に大きく規定されている。たとえば19世紀を契機に生み出された一連のあたらしい社会状況は、一連のあたらしい〈夜〉の意味と体験を生成していったことで知られている。照明テクノロジーの劇的な発達から、かつては畏怖の対象であり家に閉じこもるべき時間帯だった〈夜〉が活動可能な時間領域として意味づけなおされる。近代的な照明装置を治安・労働・消費の各方面に活用しようとする国家と資本のうごきから、膨大な人口が夜遅くまではたらき、夜遅くまで遊び耽る光景が都市世界で定着する。すなわち現代人が当然視している〈夜〉の意味と体験のありようとは、ここ200年ほどの間に形作られた比較的あたらしい意味と体験の種類にぞくしていることを近年の社会史の成果はおしえている。(右田裕規)